

ブッポウソウ



環境省指定絶滅危惧種、鳥取県指定絶滅危惧種

西伯地区にて（撮影：桐原佳介）

「こんなに美しい野鳥が日本にいたのか!」。私が初めてこの鳥と出会った時の第一印象が、この一言でした。しかし、鳴き声はいまいちで、つぶれたカエルのような「ゲゲツ」という声で鳴きます。大きさはハトくらいで、ゆったりと羽ばたいてふわりふわりと飛び、その際、翼には大きな青白い斑紋がとともよく目立ちます。

ブッポウソウは、春に東南アジアから子育てをするために日本に渡ってくる渡り鳥です。一昔前までは日本各地に渡来していましたが、今日は激減しており、平成16年の時点で日本での生息数は500羽程度だろうと考えられています。そのため、環境省もブッポウソウを絶滅危惧種に指定しています。ブッポウソウの減少理由として、営巣環境の悪化が考えられたため、岡山県加古川市や長野県栄村などでは、巣箱設置によるブッポウソウの保護活動が行われています。鳥取県でも、日本野鳥の会鳥取県支部が平成12年から日南町などでブッポウソウの巣箱設置を始めました。

現在、南部町内にも9つの地区の電柱に、大きな巣箱を12個設置しています。これらの巣箱は、平成17年から設置されていて、それ以降、私と主人は野鳥の会の一員として、毎年5月から7月に巣箱を巡って繁殖状況を観察しています。ブッポウソウは枯れ木の先端や枝先が好きなようで、いつもお気に入りの木に止まって巣箱を見守っています。

ブッポウソウを保護するためには、巣箱さえ架ければよいわけではありません。ブッポウソウは、主に飛んでいる大きな虫を空中で捕まえて食べています。いくら巣箱があっても、食物となるトンボやセミ、カナブンなどがたくさんいないと、彼らは雛を育てることができないのです。つまり、ブッポウソウが南部町で子育てをしているということは、南部町の自然の豊かさを証明していると言ってもいいでしょう。

これからもずっと、毎年ブッポウソウが子育てにやってくる南部町であって欲しいと願っています。

自然観察指導員 桐原真希